



連結業績の概要

2016年度第1四半期

2016年7月29日

ルドルフ・ファン・ハウテン グループ フィナンシャル コントローラー



重要な注意事項

将来見通しに関する注意事項

本資料には、見積り、予測値、目標値及び計画値等の、当社の将来の事業、財務状態及び経営成績に関する「見通し情報」が含まれています。これらの見通し情報は、「目指す」、「予測する」、「仮定する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「予想する」、「施策」、「意図する」、「可能性がある」、「見通し」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「試算」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」及びその類義語（これらに係る否定的な表現も含まれます。）等の将来予測に関する用語の使用、又は戦略、計画若しくは意図に関する議論により特定可能な場合があります。

本資料中のあらゆる見通し情報は、現在入手可能な情報から得られた当社の現時点における仮定及び判断に基づいています。かかる見通し情報に関して、当社及び当社の経営陣は将来の業績に係るいかなる保証もするものではなく、また、当該見通し情報には、既知又は未知のリスク、不確実性その他の要素が含まれています。そのような要素の例としては、日本、米国及び世界全体の一般的な経済情勢を含む当社の事業を取り巻く経済状況、競争圧力及び競争の激化、適用法令、新製品開発計画の成否、規制当局の決定及びそのタイミング、為替相場の変動、製品又は開発品の安全性や有効性に関するクレーム又は懸念、並びに買収対象会社との経営統合等がありますが、これらに限定されるものではなく、またいずれかの要素に起因して、当社の実際の業績や財務状態が、見通し情報により表示又は示唆されている将来の業績や財務状態から大きく乖離する可能性があります。当社及び当社の経営陣は、見通し情報において表示されている予測が現実となることを保証するものではなく、実際の業績は予測と大きく異なる可能性があります。

本資料に含まれる見通し情報は、本資料の日付時点のものに過ぎず、今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社及び当社の経営陣は、本資料に含まれる見通し情報の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

製品情報に関する注意事項

本資料には、当社の製品情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で販売されているものではありませんし、また国によって商標、効能、用量等が異なる場合もあります。また、本資料に記載されている医療用医薬品（開発品を含む）の情報は、そのような製品を宣伝・広告するものではありません。



開示項目の定義（要約）

- 「**Core Earnings**」は、売上総利益から販売費及び一般管理費、研究開発費を控除し、さらに、non-coreの性質であり、かつ、金額の大きい影響を調整して算出しております。
- 「**Core EPS**」の算出にあたっては、Core Earningsから、営業利益以下の各科目のうち、non-coreの性質であり、かつ、金額の大きい影響を調整します。さらに、これらにかかる税金影響を調整しております。
- 「**実質的な成長**」とは、事業活動のパフォーマンスを実質的に把握することを目的として、当期と前年同期の業績を共通の基準で比較するものであり、成長率の算定にあたっては、為替影響および事業等の売却による影響を除いております。

Core Earnings、**Core EPS**および**実質的な成長**の詳細については、Appendixをご参照ください。これらの指標は、IFRS（国際財務報告基準）に準拠するものではありませんが、このアプローチによって、当社は、より多くの同業他社との業績比較が容易になると考えています。



2016年度第1四半期の業績ハイライト タケダの成長ドライバーによる力強いスタート

- 財務ベースの成長(16年度第1四半期):
売上収益は為替影響および事業等の売却影響により2.8%の減収、
EPSはテバ社との合併会社への事業譲渡益により31円から127円に増加、
コアEPS(事業譲渡益影響除き)は8.7%増加
- 実質ベースの成長(16年度第1四半期):
売上収益 +9.1%、Core Earnings +40.4%、コア EPS +54.2%
 - ✓ 成長ドライバー(消化器系疾患(GI)、オンコロジー、中枢神経系疾患(CNS)
および新興国事業)は15年度の実質的な成長 +9.5%から +15.3%に加速
 - ✓ 販売費及び一般管理費はProject Summitにより対前年同期41億円減少
- 2016年度のマネジメントガイダンス達成に自信
- 株主還元**に強くコミット**、配当が重要な還元策



損益計算書（財務ベース）：16年度第1四半期 対 15年度第1四半期

EPSはテバ社との合併会社への事業譲渡益により31円から127円に増加

(億円)	15年度 第1四半期	16年度 第1四半期	増減	
売上収益	4,463	4,340	△123	△ 2.8% *1
売上総利益	3,252	2,986 *2	△266	△ 8.2%
販売費及び一般管理費	△1,617	△1,450	+167	△ 10.4%
研究開発費	△798	△765	+32	△ 4.1%
非定常項目調整	—	—	—	—
Core Earnings	837	771	△66	△ 7.9%
製品に係る無形資産償却費及び減損損失	△338	△285	+53	△ 15.7%
その他の営業収益/費用	△3	1,043 *3	+1,047	—
営業利益	496	1,529	+1,034	—
金融収益/費用	△16	△29	△13	+ 76.0%
持分法による投資損益	8	△4	△12	—
税引前四半期利益	487	1,497	+1,010	—
法人所得税費用	△233	△493 *4	△260	+ 111.8%
非支配持分	△8	△8	+0	△ 3.5%
四半期利益	246	995	+749	—
EPS	31 円	127 円	+ 96 円	—
Core EPS	65 円	71 円	+ 6 円	+ 8.7%
為替レート	円/ドル	121	112	
	円/ユーロ	132	126	

*1 為替影響と事業等の売却影響による減収を製品売上の順調な伸長で一部吸収

*2 為替影響△1.2%、事業等の売却影響△1.2%および製品価格・構成の変動影響△1.7%(国内の薬価改定影響を含む)により、粗利益率は72.9%から68.8%に低下

*3 テバ社との合併会社への長期収載品事業移管に係る事業譲渡益1,029(益)

*4 国内の税制改正影響やEarnings Mix(利益構成)の変動による実効税率の低下



成長ドライバーを加速するのは エンティビオ、ニンラーロ、トリンテリックス

実質的な売上成長

	15年度 第1四半期 (億円)	16年度 第1四半期 (億円)	
消化器系疾患*	558	756	+35.3%
オンコロジー***	792	844	+6.6%
中枢神経系疾患	120	158	+31.5%
新興国事業*	597	620	+3.9%

成長ドライバー全体成長率**

+15.3%

成長ドライバー売上**

タケダ連結売上

53%

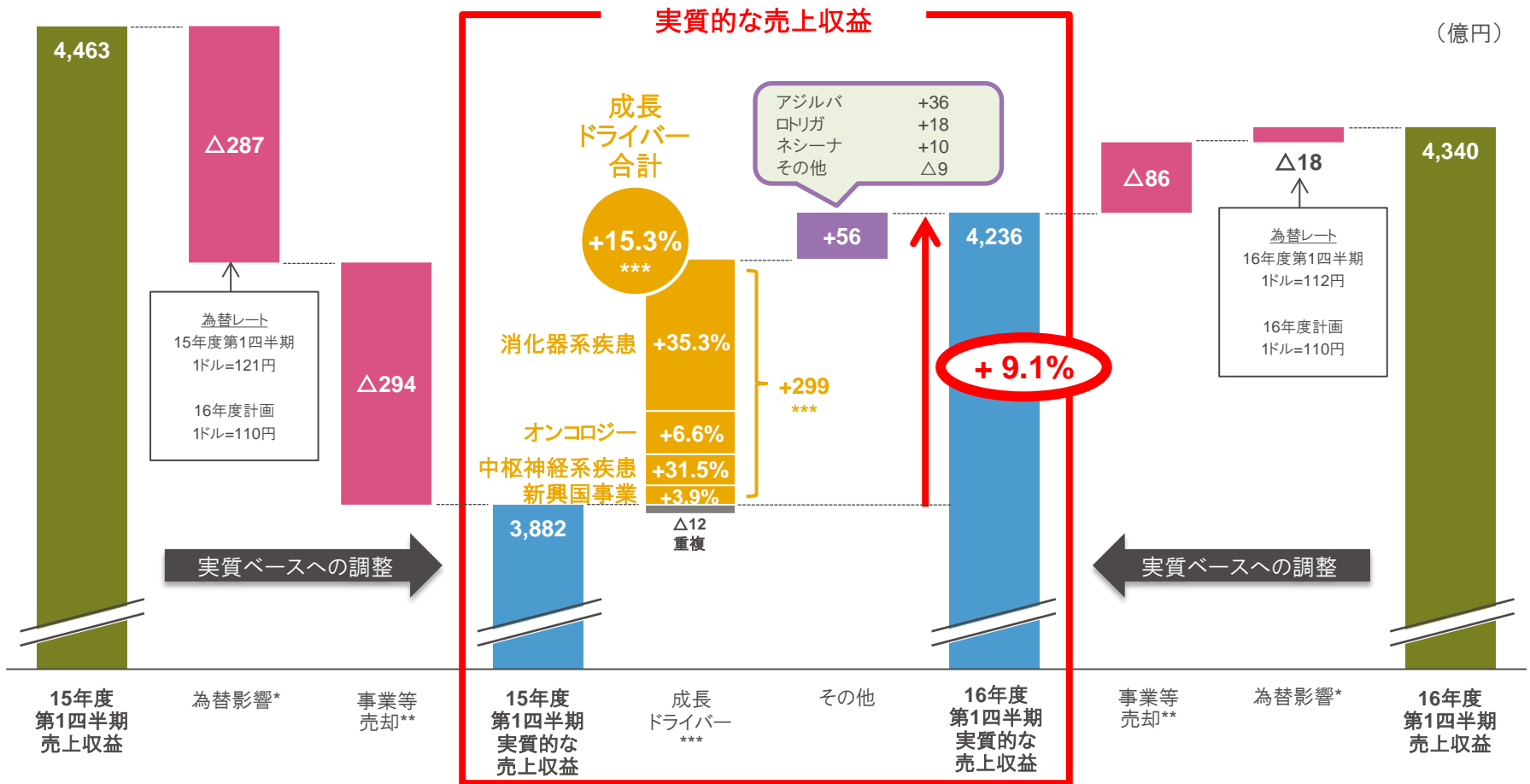
* 新興国でのパントプラゾールの売上は、新興国での主力製品であるため新興国事業に含め、消化器系疾患(GI)には含めておりません。
その他の地域でのパントプラゾールの売上はこのスライド中には含まれておりません。

** 全体成長率は、消化器系疾患、オンコロジー、中枢神経系疾患、新興国事業の売上合計から重複を排除して算出しています。
(例：新興国事業とオンコロジーにおけるアドセトリス等)

*** ベルケイドのロイヤリティーおよびその他の収益を除いたオンコロジーの実質的な成長率は+7.5%です。



実質的な売上収益は+9.1%の成長 +15.3%の成長ドライバーの伸長が牽引



* 同一為替レート(16年度計画レートの1ドル=110円、1ユーロ=125円等)を適用し影響額を算出してあります。

** 日本の長期収載品、呼吸器系疾患領域の製品、肥満症治療剤コントレブにかかる売却影響を表示しています。詳細はAppendixをご参照ください。

*** 全体成長率は、消化器系疾患、オンコロジー、中枢神経系疾患、新興国事業の売上合計から重複を排除して算出しています(例:新興国事業とオンコロジーにおけるアドセリス等)。詳細はAppendixをご参照ください。



革新的な新薬の伸長により全ての地域で実質的な成長を実現

16年度第1四半期成長率 %

実質ベース 財務ベース

日本

+9.7% Δ6.2%

タケキャブ	16年度第1四半期	64億円
アジルバ		+25.6%
ロトリガ		+36.8%

16年度第1四半期成長率 %

実質ベース 財務ベース

米国

+14.9% +5.4%

エンティビオ		+103.4%	+87.2%
トリンテリックス		+38.2%	+27.6%
ニンラーロ	16年度第1四半期	60億円	

16年度第1四半期成長率 %

実質ベース 財務ベース

欧州 およびカナダ

+6.2% Δ1.7%

エンティビオ	+137.3%	+124.4%
アドセトリス	+24.5%	+17.4%

16年度第1四半期成長率 %

実質ベース 財務ベース

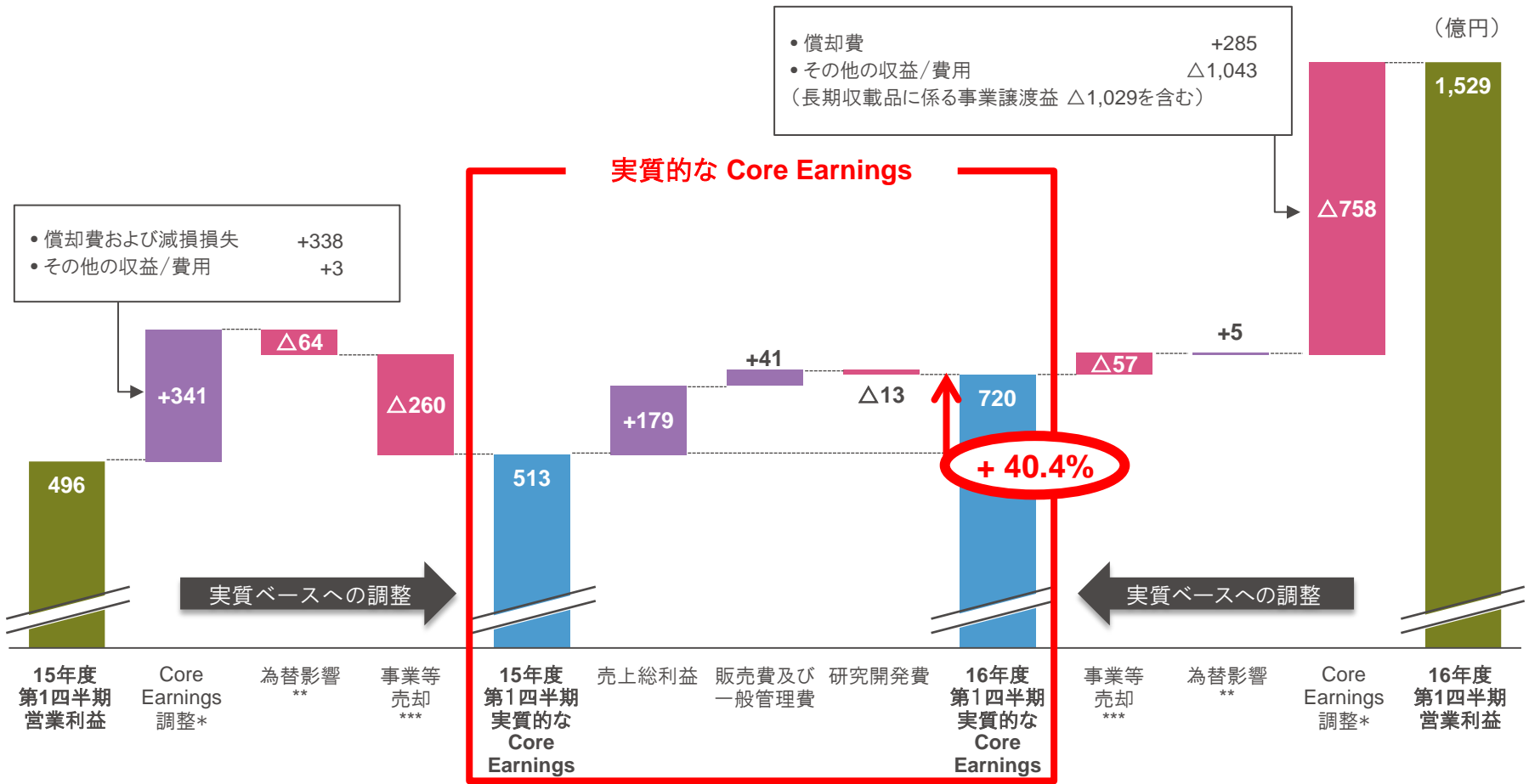
新興国

+3.9% Δ14.6%

中国	+12.6%	+3.8%
ロシア	+9.5%	Δ14.4%
ブラジル	+1.0%	Δ16.0%



実質的なCore Earningsは+40.4%の成長 成長ドライバーの伸長と販売費及び一般管理費の減少による



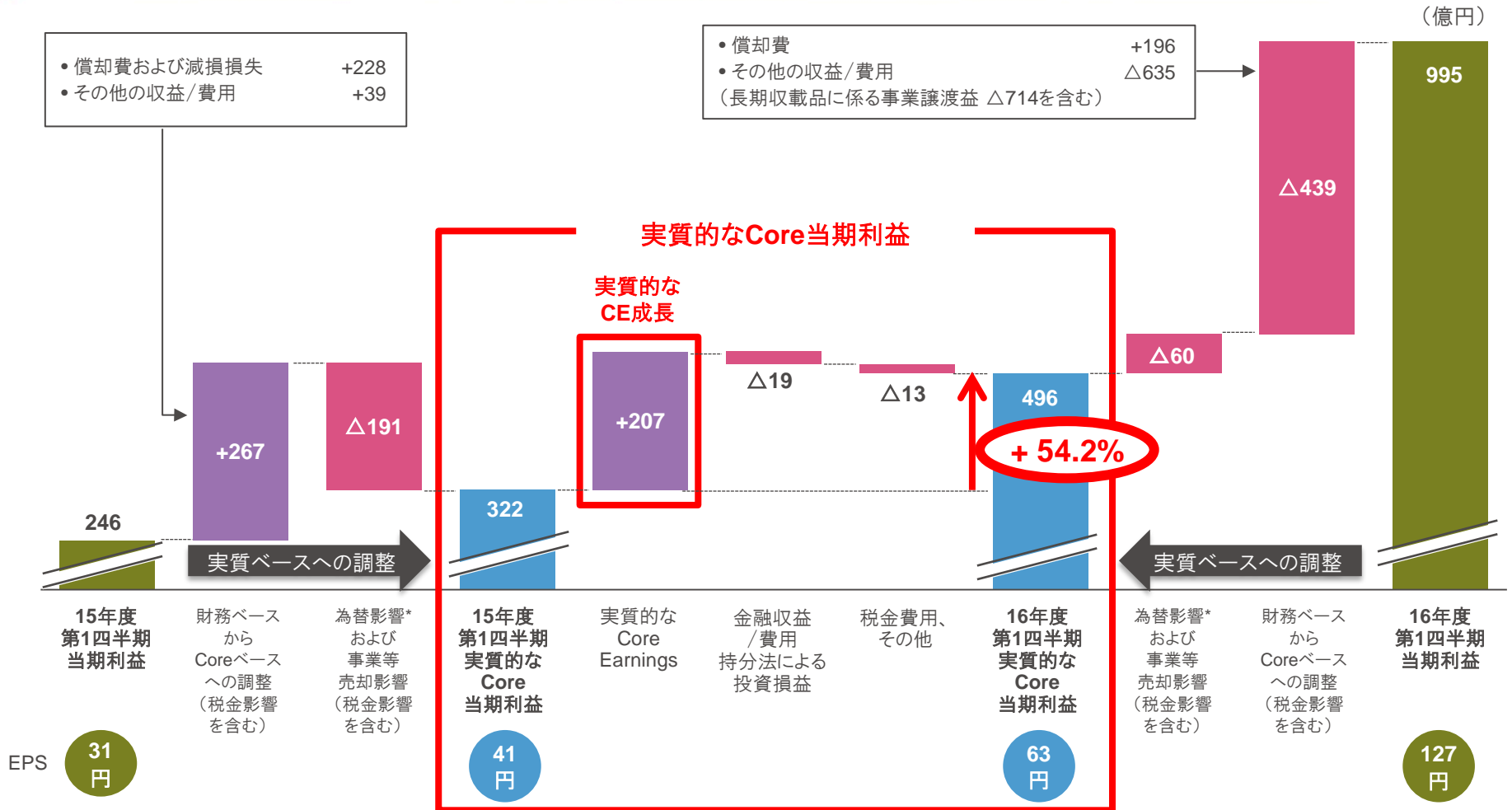
* 財務ベースからCoreベース、Coreベースから実質ベースへの調整については、ウェブサイトに掲載している調整表をご参照ください。

** 同一為替レート(16年度計画レート(1ドル=110円、1ユーロ=125円等))を適用し影響額を算出しております。

*** 日本の長期収載品、呼吸器系疾患領域の製品、肥満症治療剤コントレップにかかる売却影響を表示しています。



実質的なCore当期利益およびEPSは+54.2%の成長 Core Earningsの伸長による



* 同一為替レート(16年度計画レート(1ドル=110円、1ユーロ=125円等)を適用し影響額を算出しております。



変革の目的はR&D生産性の向上、R&D投資は継続

- 導入費用の損益計算書への一時影響額として約750億円
- 2016年度の導入費用は最大250億円程度、残る500億円の多くは2017年度に発生予定
- 変革による年間コスト削減効果の約180億円は、今後、革新的なパイプラインに再投資
- 配当支払いに影響なし
- 2016年度ガイダンスへの影響なし



マネジメントガイダンス達成に自信 2016年度：成長を持続する戦略フォーカスの年

2016年度 マネジメントガイダンス

実質的な売上収益

1桁台半ばの成長(%)

実質的なCore Earnings

10%台前半から半ばの成長(%)

実質的なCore EPS

10%台前半から半ばの成長(%)

1株当たり年間配当金

180円



力強い第1四半期実績により 年間公表予想（財務ベース）は変更なし

2016年5月10日公表

(億円)

	15年度 実績	16年度 公表予想 *	増減	
売上収益	18,074	17,200	△ 874	△4.8%
研究開発費	3,459	3,250	△ 209	△6.0%
営業利益	1,308	1,350	42	+3.2%
税引前当期利益	1,205	1,325	120	+9.9%
当期利益	802	880	78	+9.8%
EPS	102 円	112 円	10 円	+9.8%
換算レート	円/ドル	121	110	△ 11
	円/ユーロ	132	125	△ 7

- 第1四半期は費用発生の期ずれが利益に貢献
- 第2四半期以降に発生が見込まれるあるいはその可能性がある重要な一時費用
 - ✓ 研究開発体制の変革に伴う導入費用 250億円
 - ✓ 無形資産の減損損失 300億円
- 不安定な為替レート

* 当社の業績は、事業環境の変化や為替変動による影響など、現在および将来において様々なリスクにさらされております。本資料に記載されている「業績予想」は、現時点で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は様々な要因により変動し、異なる結果を招きうる不確実性を含んでいます。



Appendix



Core EarningsとCore EPSの定義

Core利益(Core EarningsとCore EPS)の概念

- 当社は、業績を報告する際に、Core EarningsとCore EPSの概念を採用しています。これは、社内の計画策定および業績評価に使用するのみならず、外部ステークホルダーへの報告においても使用しています。Core Earningsは、多くのnon-coreの要素がもたらす変動影響を控除して算出しており、これにより、当社事業の実質的な業績を適切に報告することが出来ます。IFRS（国際財務報告基準）に準拠するものではありませんが、当社は、Core Earningsを算出、報告することにより、多くの同業他社との業績比較が容易になると考えています。多くの同業他社は、同一ではないものの、当社と類似する概念を会社業績の評価に使用しています。
- **Core Earnings**は、売上総利益から、販売費及び一般管理費、および、研究開発費を控除して算出します。さらに、non-coreの性質であり、かつ、金額の大きい影響を調整しています。これらには、自然災害による影響、企業買収に係る会計処理の影響、主な訴訟費用、事業構造再編費用、政府による法令変更の措置の影響などが含まれます。説明責任及び信頼性を保証するため、これらを控除する際の金額基準は「10億円以上」と高く設定しています。
- **Core EPS**の算出にあたっては、Core Earningsから、営業利益以下の各科目のうち、non-coreの性質であり、かつ、金額の大きい影響(10億円以上)を調整します。ここには、条件付対価に係る公正価値変動影響などが含まれます。さらに、これらにかかる税金影響に加え、上記のCore Earnings調整にかかる税金影響を合わせて調整します。



「実質的な成長」の定義

実質的な成長

- 「実質的な成長」とは、事業活動のパフォーマンスを実質的に把握することを目的として、当期と前年同期(四半期あるいは年間)の業績を共通の基準で比較するものです。このため、各期間を共通の為替レートおよび共通の母集団(事業ポートフォリオ)に統一する調整を行っています。
- **共通の為替レート:** グローバルに事業を展開している当社の業績は、様々な通貨の為替レート変動による影響を受けています。従って、異なる期間の業績の比較は、換算に使用する為替レートの違いにより歪みが生じることがあります。このため、為替変動による影響を排除して業績の比較を容易にし、実質的な成長を把握するため、共通の為替レート(CER: Constant Exchange Rates)を異なる期間それぞれに適用します。これには通常、当期の計画レートを使用します。
- **共通の母集団(事業ポートフォリオ):** 当社はダイナミックな環境の中で事業を推進しており、non-coreあるいは非戦略的な事業売却による事業ポートフォリオの最適化を継続的に図っています。従って、異なる期間の業績の比較は、売却事業を有していた期間と有していない期間の違いにより歪みが生じることがあります。このため、売却事業による影響を排除して業績の比較を容易にし、実質的な成長を把握するため、共通の母集団に統一する調整を行います。通常、売却事業を有していた前年同期における当該売却事業の影響を控除することにより、売却事業を有していない当期の母集団に統一する調整を行います。



成長ドライバー



消化器系疾患、オンコロジーおよび中枢神経系疾患の成長ドライバー（実質的な売上成長）

実質的な売上成長

（億円）

	15年度 第1四半期	16年度 第1四半期	実質的な成長	
エンティビオ	148	317	+169	+113.9%
タケキャブ	5	64	+58	—
アミティーザ	85	87	+2	+2.5%
デクスラント	170	160	△10	△5.9%
ランソプラゾール*	150	128	△22	△14.8%
消化器系疾患	558	756	+197	+35.3%
ニンラーロ	—	59	+59	—
アドセトリス	61	78	+17	+27.2%
リユープロレリン	300	308	+7	+2.5%
ベクティビックス	47	49	+2	+5.1%
ベルケイド	384	350	△33	△8.7%
オンコロジー	792	844	+52	+6.6%
トリンテリックス**	46	63	+18	+38.2%
ロゼレム	35	47	+12	+33.2%
レミニール	39	46	+8	+19.3%
コパキソン	—	1	+1	—
中枢神経系疾患	120	158	+38	+31.5%

* 日本におけるランソプラゾール(国内製品名:タケプロン)の単剤は16年度にテバ社との合併会社へ移管されたため15年度の売上収益を調整しています。

** 「トリンテリックス」は2016年6月より米国における製品名を「プリンテリックス」から変更して販売しています。



消化器系疾患、オンコロジーにおける成長ドライバー (製品プロファイル)

消化器系疾患における成長ドライバー*

	製品名／一般名	発売年月**	薬効	主な適応症
1	ランソプラゾール	1992/12	プロトンポンプ阻害薬	消化性潰瘍
2	アミティーザ	2006/4	クロライドチャンネル開口薬	慢性特発性便秘症
3	デクスラント	2009/2	プロトンポンプ阻害薬	酸関連疾患
4	エンティビオ	2014/6	ヒト化抗 $\alpha 4\beta 7$ インテグリンモノクローナル抗体	潰瘍性大腸炎、クローン病
5	タケキャブ	2015/2	カリウムイオン競合型アシッドブロッカー	酸関連疾患

オンコロジーにおける成長ドライバー

	製品名／一般名	発売年月**	薬効	主な適応症
1	リュープロレリン	1985/5	LH-RH アゴニスト	前立腺がん
2	ベルケイド	2008/5	プロテアソーム阻害薬	多発性骨髄腫
3	ベクティビックス	2010/6	ヒト型抗EGFRのモノクローナル抗体	進行・再発の結腸・直腸癌
4	アドセトリス	2012/11	CD30 モノクローナル抗体薬物複合体	再発・難治性のホジキンリンパ腫
5	ニンラー口	2015/12	経口プロテアソーム阻害薬	多発性骨髄腫

*パントプラゾールは、新興国での主力製品であるため新興国事業に含め、消化器系疾患(GI)には含めない。

**世界市場において当社が最初に発売を開始した年月を表示。



中枢神経系疾患における成長ドライバー (製品プロファイル)

中枢神経系疾患における成長ドライバー

	製品名／一般名	発売年月**	薬効	主な適応症
1	ロゼレム	2005/9	MT ₁ /MT ₂ 受容体作動薬	不眠症
2	レミニール	2011/3	アセチルコリンエステラーゼ阻害・ニコチン性アセチルコリン受容体増強薬	アルツハイマー型認知症
3	トリンテリックス*	2014/1	多重作用メカニズム型抗うつ薬	大うつ病
4	コパキソン	2015/11	免疫調整薬	多発性硬化症の再発予防

*「トリンテリックス」は2016年6月より米国における製品名を「プリンテリックス」から変更して販売。

**世界市場において当社が最初に発売を開始した年月を表示。



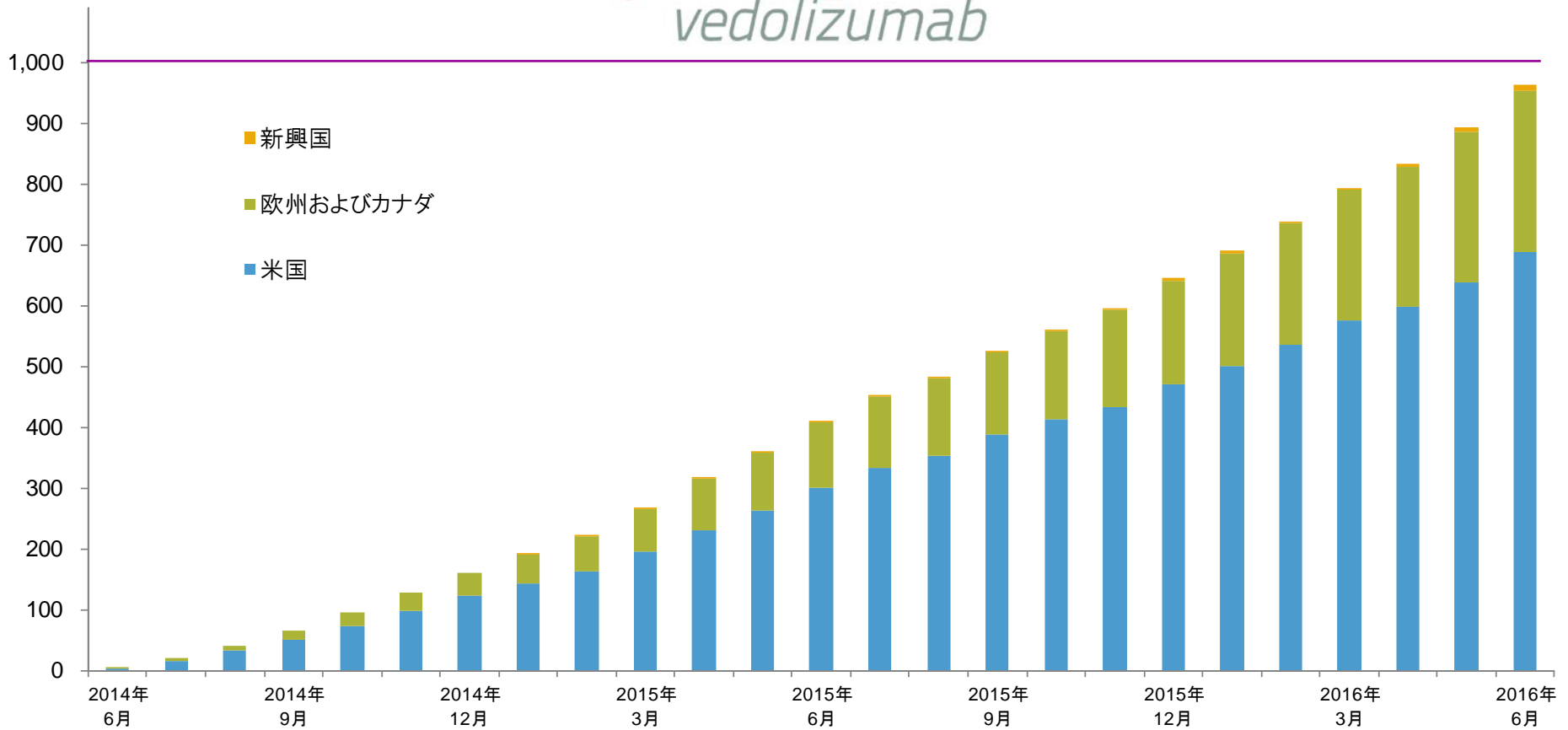
エンティビオ

2018年度中に20億ドルを超える売上（MAT*）に向け順調に進捗



同一為替レート換算のMAT*(Moving Annual Total(移動通年合計))売上収益

売上収益
(億円)



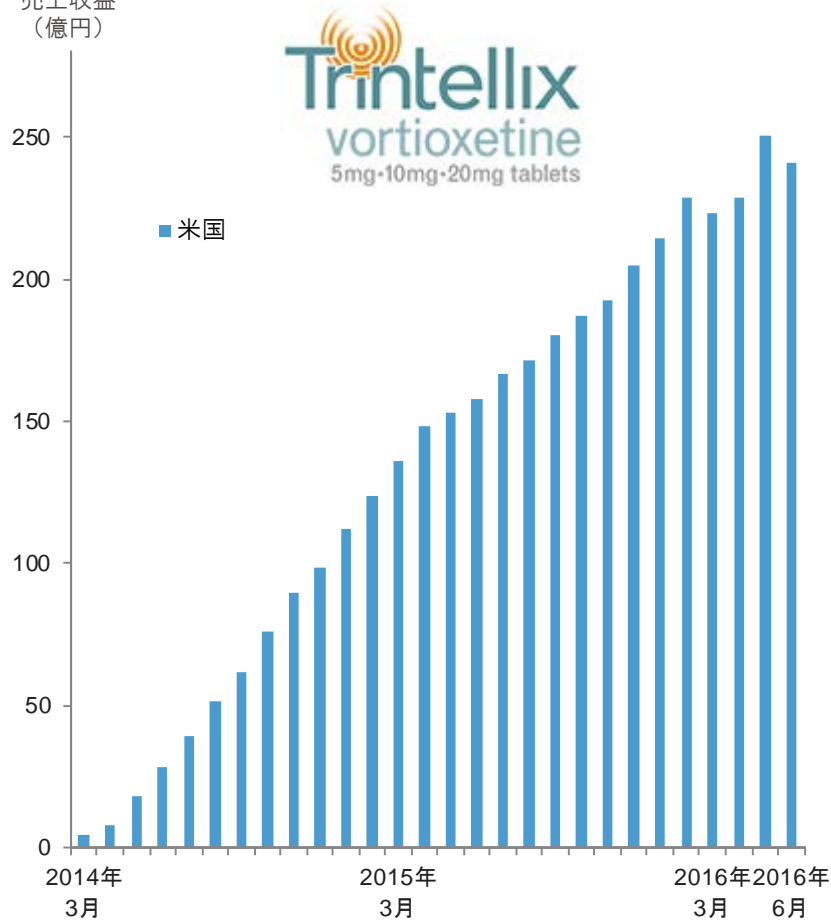


トリンテリックスとアドセトリスが力強く伸長

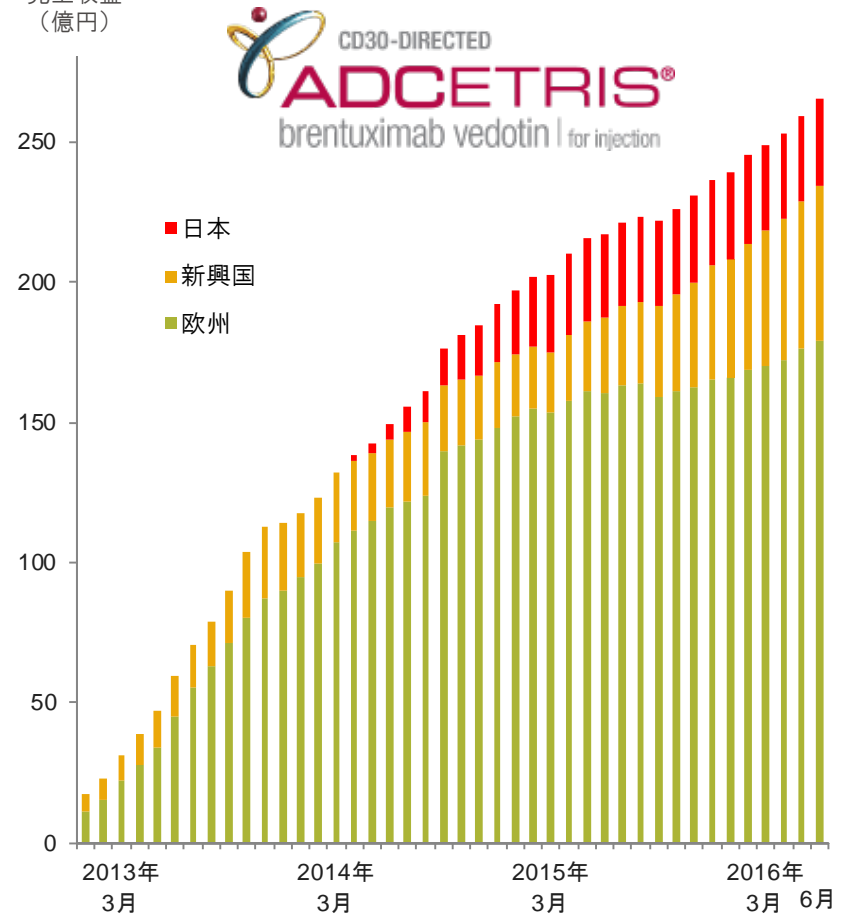
(注)「トリンテリックス」は2016年6月より米国における製品名を「プリンテリックス」から変更して販売

同一為替レート換算のMAT(Moving Annual Total(移動通年合計))売上収益

売上収益
(億円)



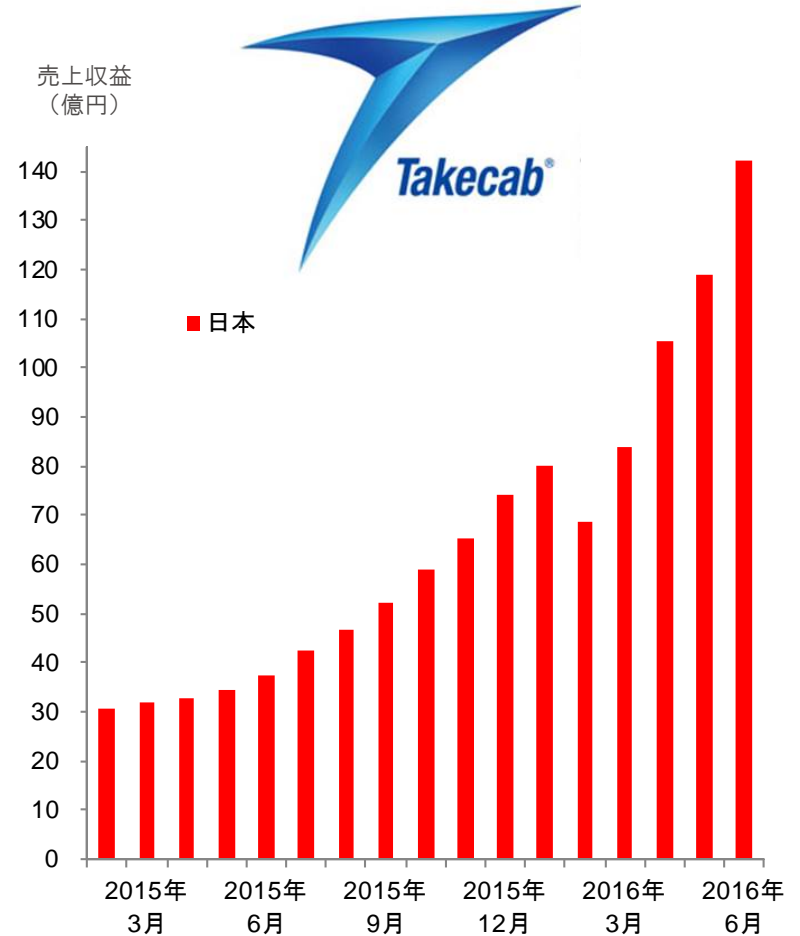
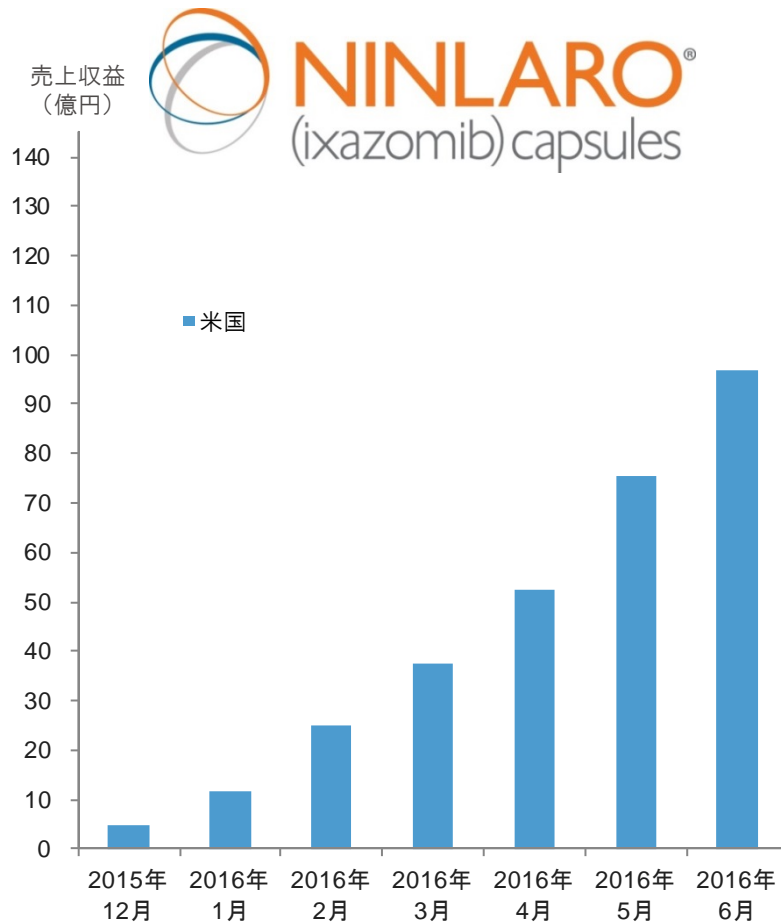
売上収益
(億円)





ニンラーロとタケキャブの良好な立ち上がり

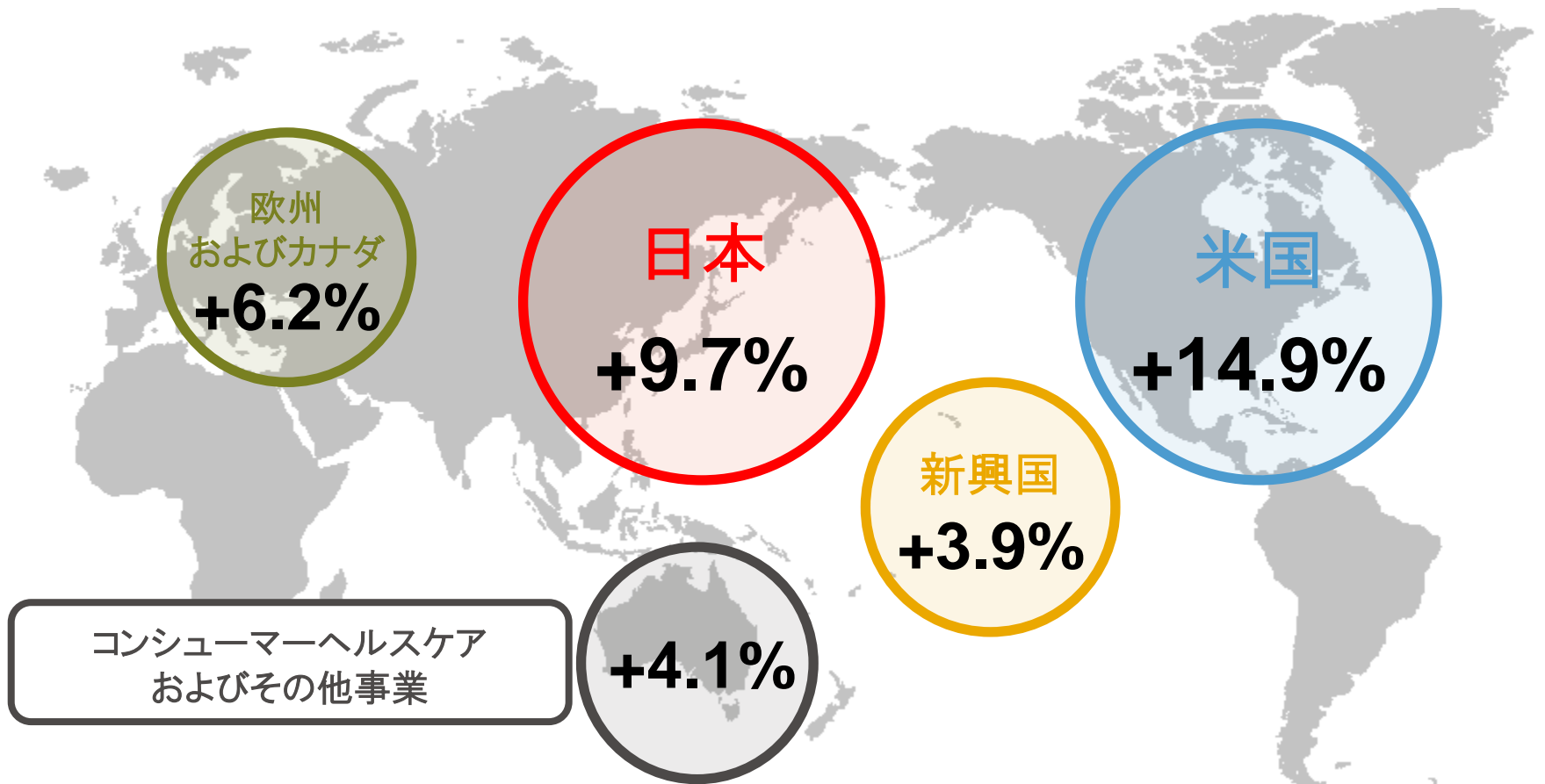
同一為替レート換算のMAT(Moving Annual Total(移動通年合計))売上収益





米国と日本が力強く成長を牽引

実質的な売上収益 16年度第1四半期 連結合計: 4,236億円、+9.1%

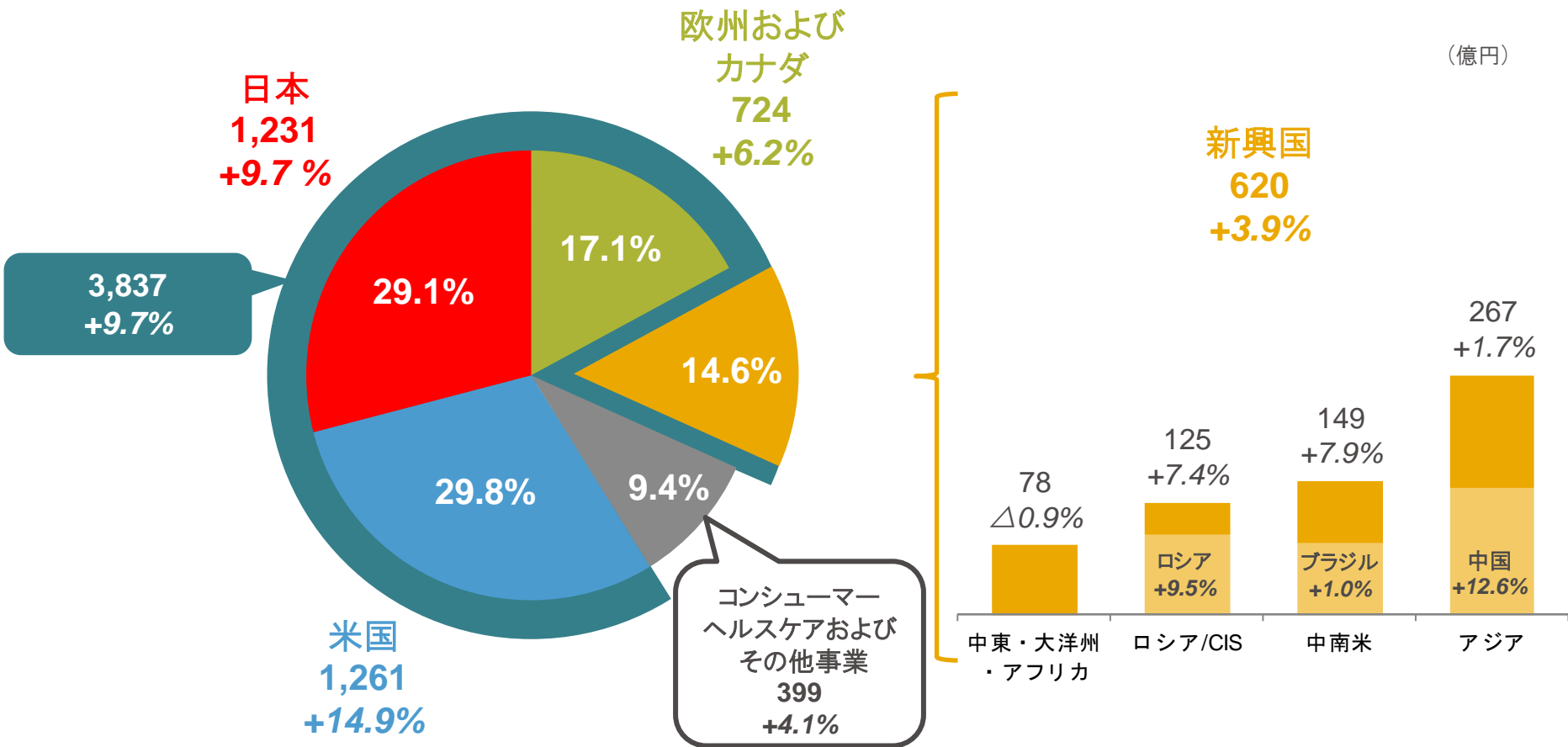




新興国市場の主要国では、 中国とロシアが現地通貨ベースで力強い立ち上がり

実質的な売上収益 16年度第1四半期 連結合計: 4,236億円、+9.1%

(億円)





損益計算書（実質ベース）



損益計算書（実質ベース）：16年度第1四半期 対 15年度第1四半期

	15年度 第1四半期	16年度 第1四半期	増減	(億円)
実質的な売上収益	3,882	4,236	+354	+ 9.1%
実質的な売上総利益	2,745	2,924	+179	+ 6.5%
販売費及び一般管理費	△ 1,486	△ 1,445	+41	△ 2.8%
研究開発費	△ 747	△ 759	△13	+ 1.7%
実質的なCore Earnings	513	720	+207	+ 40.4%
金融収益/費用	7	△ 6	△13	—
持分法による投資損益	8	2	△6	△ 79.4%
実質的なCore税引前四半期利益	528	716	+188	+ 35.5%
法人所得税費用	△ 198	△ 211	△13	+ 6.7%
非支配持分	△ 8	△ 8	+0	△ 0.6%
実質的なCore四半期利益	322	496	+175	+ 54.2 %
実質的なCore EPS	41 円	63 円	+ 22 円	



売上収益の財務ベースから実質ベースへの調整

(億円)

	15年度 第1四半期	16年度 第1四半期	成長率
売上収益	4,463	4,340	△ 2.8%
為替影響*	△ 287	△ 18	
(15年度)テバ社との合併会社に移管した国内の長期収載品にかかる売上収益	△ 226	-	
(15年度)アストラゼネカ社に売却した呼吸器系疾患領域の製品にかかる売上収益	△ 51	-	
(15年度)オレキシジェン社と返還合意したコントレイブにかかる売上収益	△ 18	-	
16年度の売却影響等合計**	-	△ 86	
実質的な売上収益	3,882	4,236	実質的な成長率 + 9.1%

* 同一為替レート(16年度計画レート)の1ドル=110円、1ユーロ=125円等)を適用し影響額を算出しております。

** 16年度におけるテバ社との合併会社からの供給、流通にかかる役務収益、呼吸器系疾患領域の製品にかかる売上収益、肥満症治療剤コントレイブにかかる売上収益の合計です。



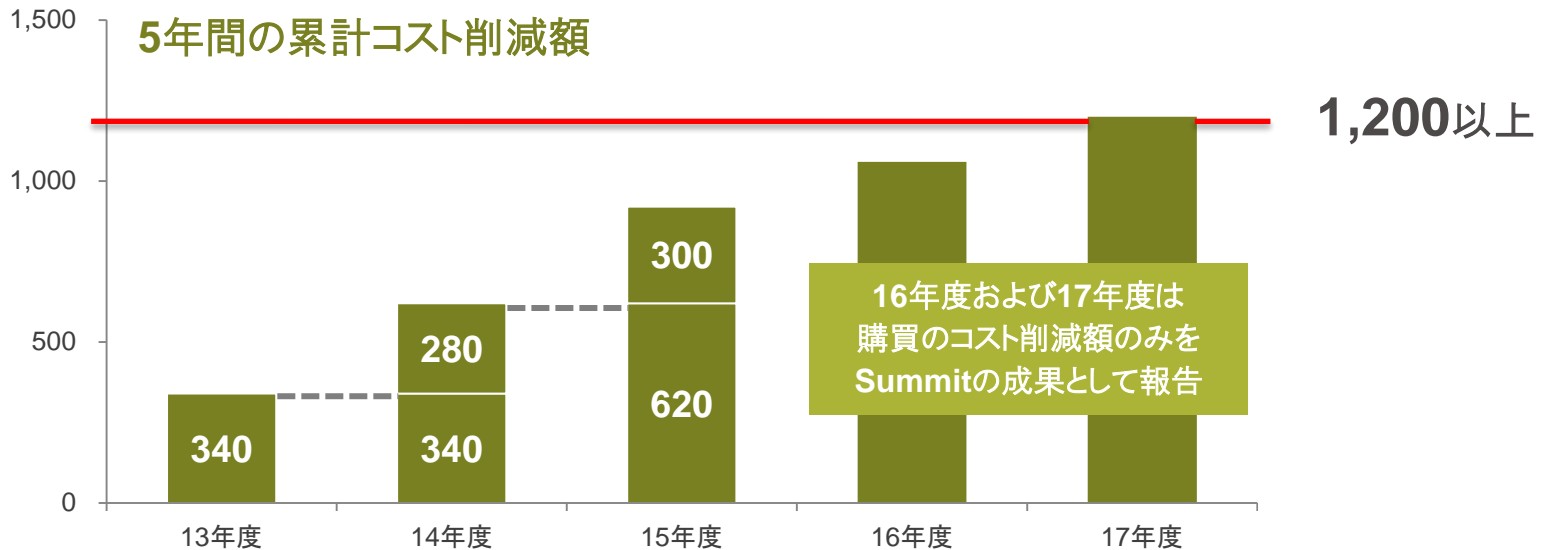
Project Summit



Project Summitは購買関係の削減が順調に進展

	13-15年度 (累計)	16年度第1四半期 (実績)	13-17年度 (累計目標)	(億円)
コスト削減額	920	40*	1,200以上	
導入一時費用	690	30	1,000上限	

* 16年度第1四半期コスト削減額内訳： 23% コマーシャル、31% R&D、14% 製造・供給、31% 一般管理





キャッシュ・フローと負債



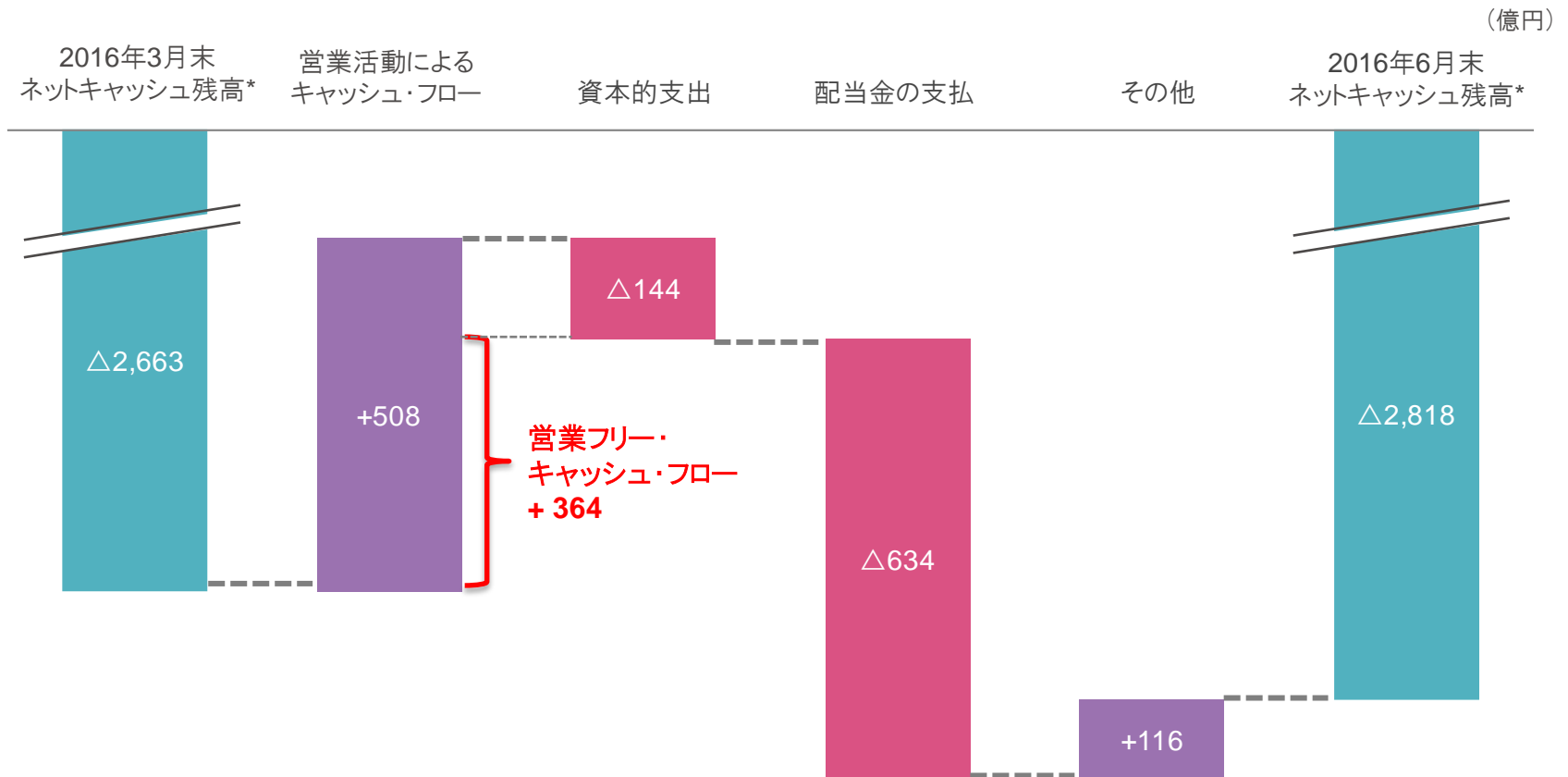
キャッシュ・フロー

	15年度 第1四半期	16年度 第1四半期	増減
			(億円)
四半期利益	254	1,003	+749
減価償却費、償却費及び減損損失	490	438	
運転資本増減(△は増加)	△ 195	△ 396	
法人税等の支払額	△ 121	△ 49	
その他	△ 241	△ 489	
営業活動によるキャッシュ・フロー	186	508	+321
有形固定資産の取得	△ 100	△ 120	
無形固定資産の取得	△ 56	△ 24	
(営業フリー・キャッシュ・フロー)	(+30)	(+364)	(+333)
定期預金の預入による支出	-	△ 550	
事業売却による収入	-	624	
その他	△ 48	14	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 204	△ 56	+147
長期借入による収入	-	2,000	
自己株式取得による支出	△ 223	△ 210	
配当金の支払額	△ 625	△ 634	
その他	△ 18	△ 32	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 866	1,124	+1,990
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)*	△ 883	1,576	+2,459

* 現金及び現金同等物に係る換算差額は含んでおりません。



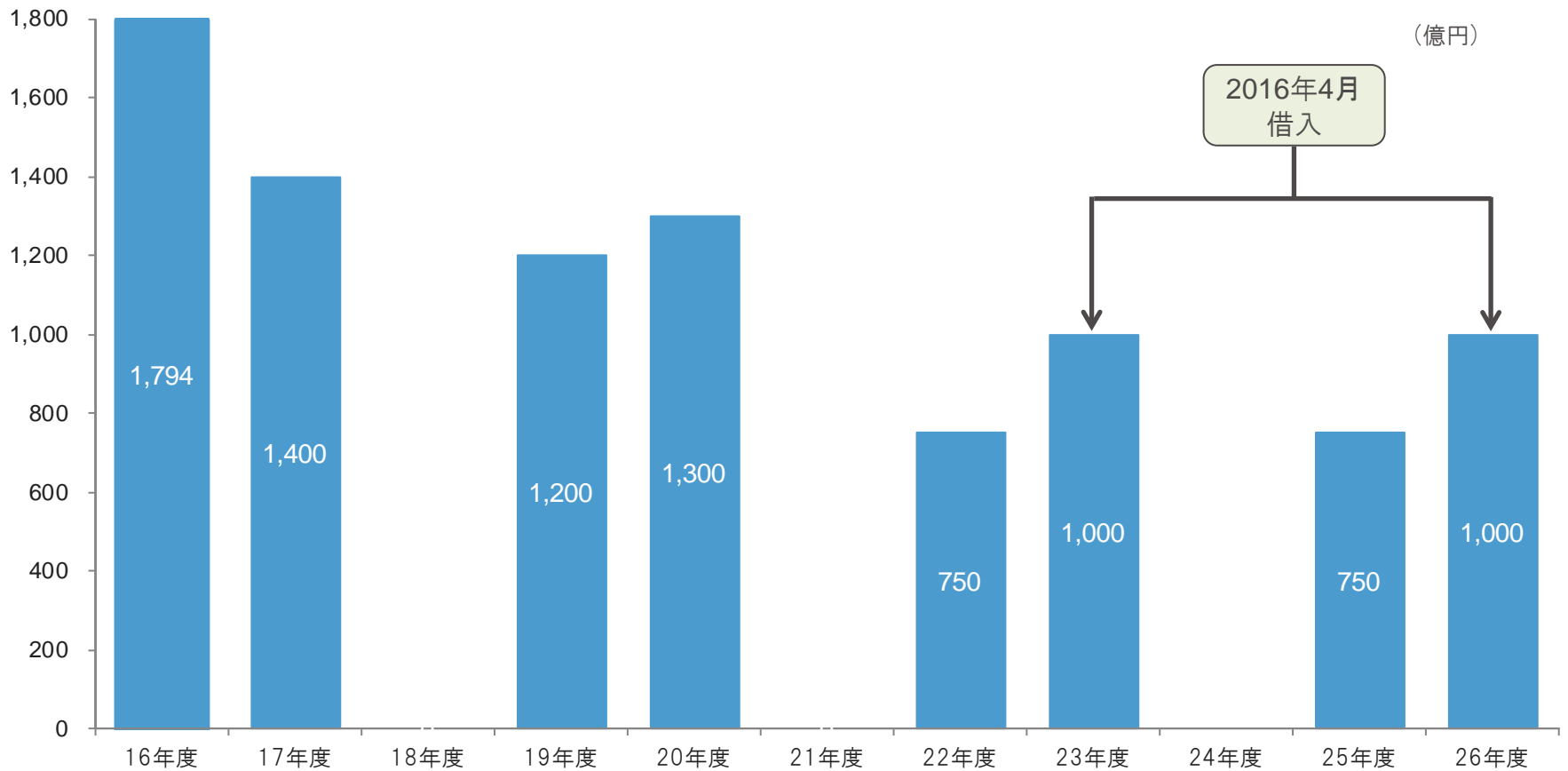
16年度第1四半期 営業フリー・キャッシュ・フローは360億円超



* 現金及び現金同等物(期末から1年以内に決済予定の短期投資を含む)から、為替レートをヘッジしたベースの有利子負債を控除して算定しています。



満期を迎える負債返済予定





2016年度公表予想



2016年度公表予想 当期利益およびEPSは対前年度10%伸長

2016年5月10日公表	15年度 実績	16年度 公表予想*	増減	
売上収益	18,074	17,200	△ 874	△4.8%
研究開発費	3,459	3,250	△ 209	△6.0%
営業利益	1,308	1,350	42	+3.2%
税引前当期利益	1,205	1,325	120	+9.9%
当期利益	802	880	78	+9.8%
EPS	102 円	112 円	10 円	+9.8%
換算レート	円/ドル	121	110	△ 11
	円/ユーロ	132	125	△ 7

(億円)

主な見通しの前提条件

前提為替レート

1USD=110円、1EUR=125円、
1RUB=1.6円、1CNY=17.4円、
1BRL=31.2円、

研究開発費

3,250億円、前提為替レートにより減少

製品等に係る無形資産償却費
及び減損損失 1,400億円

長期収載品事業に係る
事業譲渡益(その他営業収益)
1,000億円

効率的な事業運営体制構築の
取り組み費用(その他営業費用)
250億円

資本的支出(有形・無形資産)
1,750億円

* 当社の業績は、事業環境の変化や為替変動による影響など、現在および将来において様々なリスクにさらされております。
本資料に記載されている「業績予想」は、現時点で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は様々な要因により変動し、異なる結果を招きうる不確実性を含んでいます。



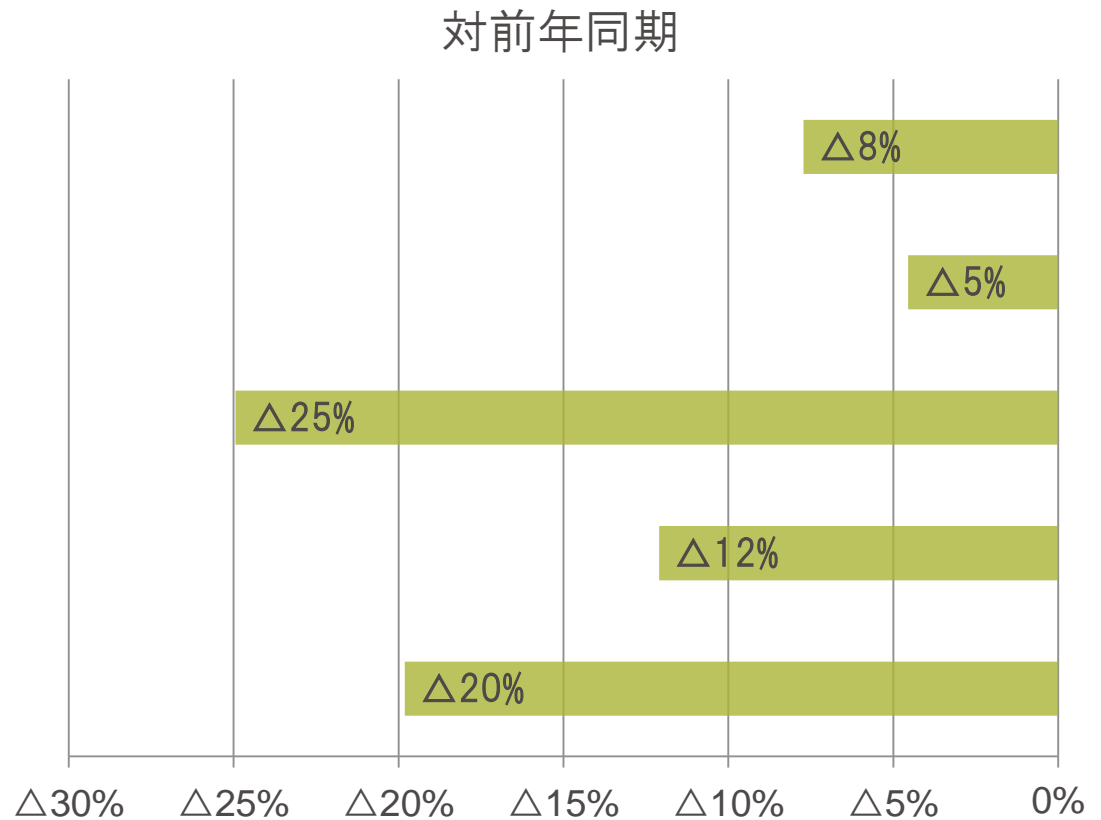
為替レート



2016年度第1四半期 平均為替レート

平均為替レート (円)*

	15年度 第1四半期	16年度 第1四半期
USD	121.02	111.67
EUR	131.81	125.82
RUB	2.24	1.68
CNY	19.49	17.13
BRL	39.05	31.32



*各月の前月末レートの平均



月次実勢レートおよび公表予想レート

(円)

実勢レート*	15年度					16年度				
	USD	EUR	RUB	CNY	BRL	USD	EUR	RUB	CNY	BRL
4月	120	130	2.1	19.3	37.2	112	127	1.7	17.4	31.2
5月	119	130	2.3	19.1	40.8	111	126	1.7	17.1	31.6
6月	124	136	2.4	20.0	39.2	111	124	1.7	16.9	31.1
平均	121	132	2.2	19.5	39.1	112	126	1.7	17.1	31.3

*各月の前月末レートを適用

(円)

公表予想レート	16年度				
	USD	EUR	RUB	CNY	BRL
7-3月平均	109	125	1.6	17.5	31.2
4-3月平均	110	125	1.6	17.4	31.2



1%為替變動影響

1%為替變動影響(7 - 3月)

(億円)

	16年度 7-3月				
	USD	EUR	RUB	CNY	BRL
売上収益	43	14	3	5	3
Core Earnings	9	3	2	1	0
当期利益	2	-0	1	1	0

Better Health, Brighter Future



武田薬品工業株式会社